

令和7年5月22日

まちづくり委員会資料

陳情第103号

菅稲田堤3丁目地域に雨水を集中させない
ことを求める陳情

建設緑政局

陳情第103号 菅稻田堤3丁目地域に雨水を集中させないことを求める陳情

1. 陳情箇所の概要

(1) 三沢川の治水対策

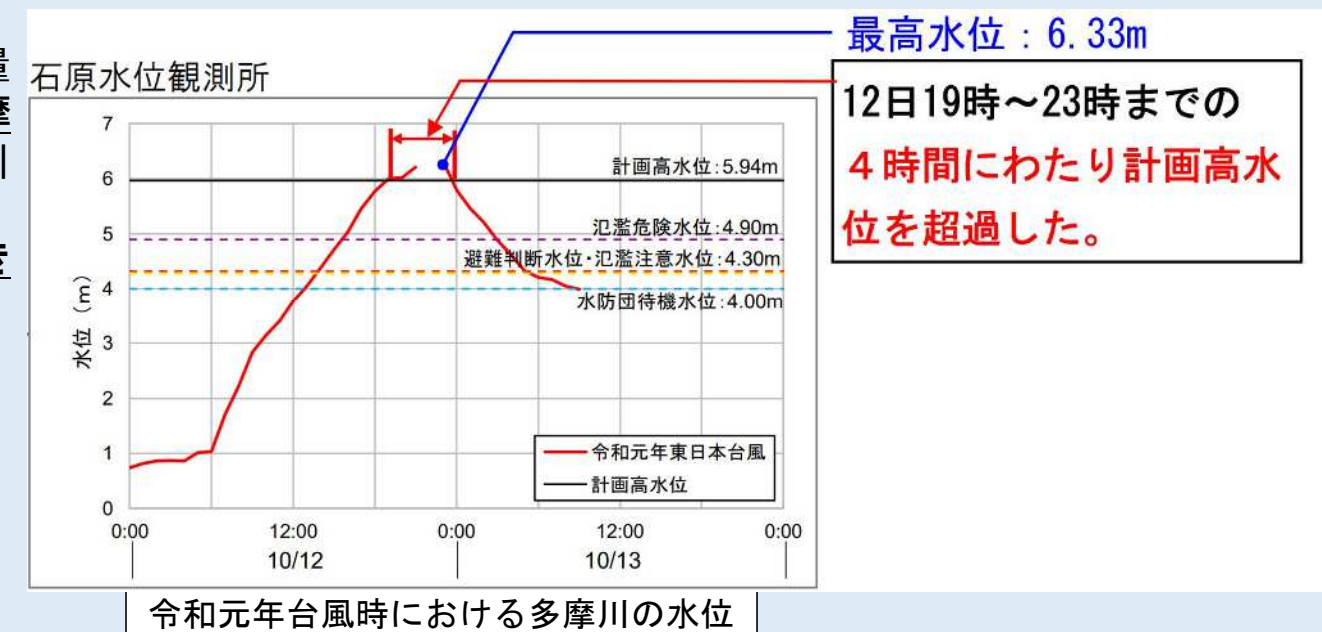
従前の三沢川の流路は、現在の旧三沢川でしたが、洪水時に溢水による浸水被害が度々発生したため、県営三沢川沿岸排水改良事業によりバイパスが建設され、昭和22年に完成し、現在の流路となりました。また、多摩ニュータウン開発に伴い稲城地区の排水と三沢川の流量調節機能を兼ねた分水路が、昭和59年に完成し、併せて神奈川県管理区間について、昭和45年～平成5年にかけて護岸工・河床工・橋梁架替を行い、現在、**下流部で毎秒200立方メートルの流下能力を有する河川**となっています。

(2) 令和元年東日本台風の概要と多摩川流域の状況

令和元年10月11日(金)から令和元年東日本台風の接近に伴い、多摩川流域全体の広範囲に強い雨域がかかり、山梨県、東京都、神奈川県を中心に大雨となりました。**多摩川流域の各観測所においても、観測を開始してから過去最高の雨量を観測し、これらの降雨により発生した洪水は、計画高水位を超過したまま多摩川下流域を流下しました。**

(3) 浸水被害の状況

大丸用水の上流域に位置する多摩雨量観測所（稲城市大丸）でも既往最高の雨量を観測しました。一方、三沢川流域の雨量は流下能力を下回る降雨でしたが、**多摩川において計画高水位を越える状況の中、三沢川においても水位が上昇し、三沢川に接続する水路の水が流入しづらくなったため、水路からの越水が発生したほか、三沢川護岸に設置されているアクリル板の目地からの漏水や、管理用通路の水抜き穴からの浸水も発生し、当該地域では約12ヘクタールの浸水被害が発生しました。**



三沢川管理用通路の浸水状況



菅住宅付近の浸水状況

陳情第103号 菅稻田堤3丁目地域に雨水を集中させないことを求める陳情

2. これまでの取組

(1) 三沢川の取組

①水路（水門）の補修や管理

大丸水門の補修工事（神奈川県）
水路浚渫、清掃、流下能力向上等（川崎市）

②フラップゲートの設置

フラップゲートの設置工事（神奈川県）

③三沢川の護岸補修

アクリル板の目地補修等工事（神奈川県）

④水位計、カメラの設置

大丸水門付近に水位計・カメラ設置工事（神奈川県）

⑤被害最小化の取組

移動式ポンプの設置（川崎市）
土のうステーションの設置（川崎市）

⑥大丸用水上流部の取組

排泥施設水門を完全閉塞ができる構造に改良（稲城市）
川崎市域を通らずに多摩川に直接排水するバイパス管を設置（稲城市）
上流部で三沢川へ排水するための分水堰の改良（川崎市）



土のうステーション



(2) 多摩川の取組

①河道の掘削

国は多摩川緊急治水対策プロジェクトを策定し、令和元年東日本台風に伴う洪水において、計画高水位を超えた区間に対して、必要な河道掘削等を実施しています。（令和7年度完了予定）

②河川整備計画の変更

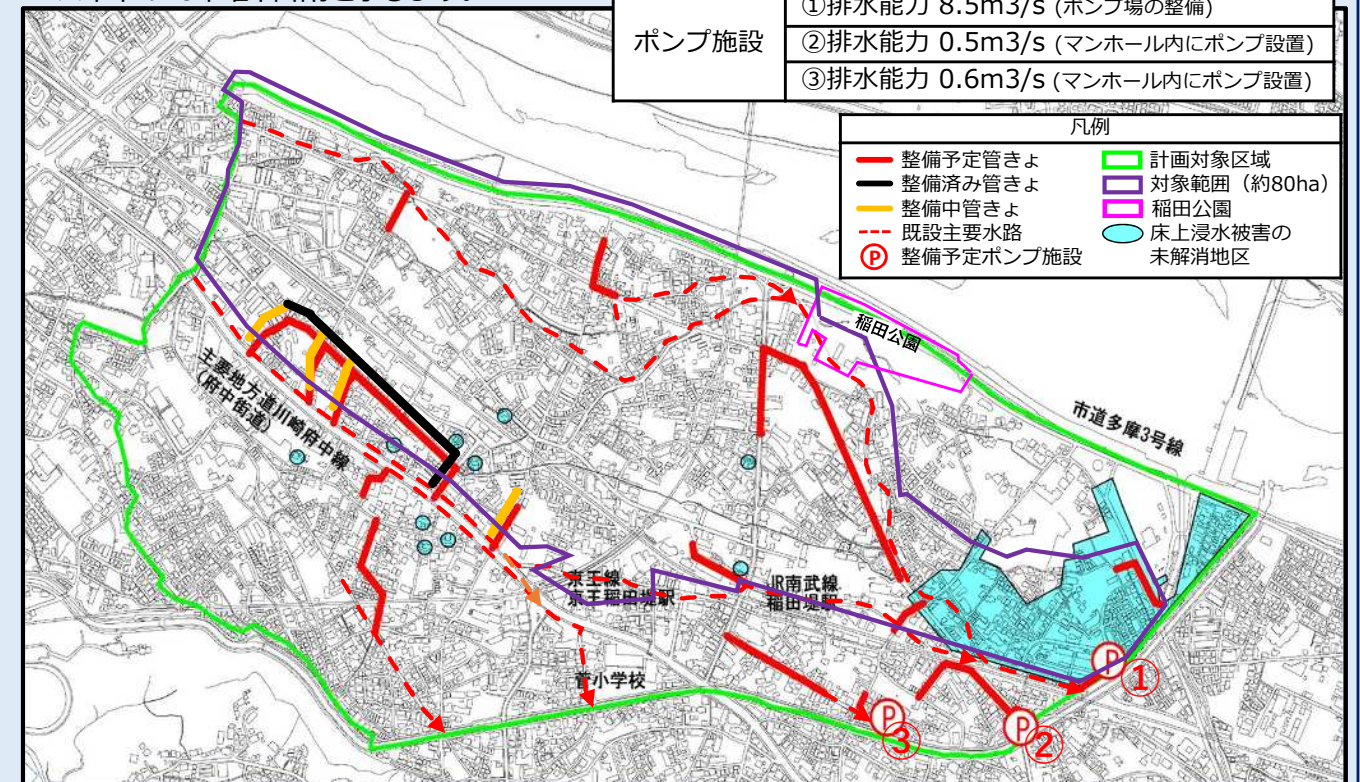
国は令和4年度に多摩川水系河川整備基本方針の変更を行い、治水計画をこれまでの「過去の降雨実績に基づくもの」から「気候変動の影響を考慮したもの」へと見直しました。現在、多摩川水系河川整備計画の変更に向けた取組を実施しています。

3. 今後の下水道整備計画

(1) 整備計画の概要

河川計画上の流域において、一時間あたり58mmの降雨※に対して浸水被害を発生させず、一時間あたり92mmの降雨に対して床上浸水を発生させないことを目標としています。
※本市の10年確率降雨を示します。

雨水管きよ	φ300mm×□3,000×1,500 L=3,121m
ポンプ施設	①排水能力 8.5m ³ /s（ポンプ場の整備） ②排水能力 0.5m ³ /s（マンホール内にポンプ設置） ③排水能力 0.6m ³ /s（マンホール内にポンプ設置）



(2) 菅稻田堤3丁目のポンプ施設①整備図（菅第3公園）

- ・稲田公園を含む約80ヘクタールを対策の対象範囲としています。
- ・三沢川高水位時にも雨水を排出する能力があります。
- ・ポンプ設備を地下化し、現状と同程度の公園面積を確保します。

